

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>江津湖花火大会開催へのお礼 昨年の市長選で、市長のマニフェストの項目が100以上ある中に江津湖の花火大会があり、我々はぜひ大西元県議に市長になってほしいと思い、その通りになった。 しかし、他に重要課題が多いため、花火大会は2、3年後になるものと思っていたところ、1番に取り上げていただき感動し、我々も頑張らねばと思った。市の職員も頑張った。観客も目標13万人のところ12万人の参加があった。11年前の反省に立つと、当時は交通規制によって車が渋滞を起し、これが花火大会廃止の遠因にもなったと思うが、今回は観客の交通アクセスに関する対策も非常に綿密に立ててあった。 あと一つ、大会の後片付けや、ごみの問題がある。我々も、以前は観客として参加していたので、ごみのことは念頭になかった。しかし、今回は地域の代表を実行委員として選んでもらい、江津湖の花火大会についての話し合いに参加した。それに伴い、観客ではなく観客を迎える側に立ったことで、地域と行政が密着し、良い効果上げたのではないと思う。 今回は江津湖周辺の代表だったが、東区は18校区あるので他校区の方々にも参加してもらい、東区、熊本市のビッグイベントとして全市、あるいは九州一円の名物になってほしいと思っている。</p>	<p>江津湖の花火大会は、私自身も慣れ親しんだイベントだった。 ご要望が多かったこともあり、何とか、市民の一体感、楽しみのためにも復活させたいと頑張った。私だけでなく、市職員も頑張ってくれたし、交通規制をする警察など含め行政は当然だが、地元の皆様のご協力が非常に大きかったことは何より良かった点だと思う。特に交通指導員さんや、地域のボランティアの方々には大変お世話になった。地域の皆様にはご迷惑もお掛けしたことと思う。こちらからも、心から感謝申し上げる。 私も花火大会の翌朝7時から江津湖のごみ拾いに行ったが、こんなにごみが落ちていないのかというほど、ごみが少なかった。私の前にごみを片付けた方がいたのかも知れないが、観客の皆さんのマナーがかなり良かったのだと思う。 ただ、雨には困った。順延の決定がぎりぎりになってしまったことについては、大変申し訳なかった。しかし、翌日の花火の間だけ何とか晴れた。これは、皆さんの願いが通じて実施できたのだと思う。 江津湖花火大会は、熊本を代表するイベントであるし、各地から来ていただけるような九州を代表するイベントに育てていきたい。また、同時に、このようなイベントを通して地域のつながりができていくことが重要だと思う。 一方で、交通規制等では、いろいろ課題もあった。交通規制をかけた範囲の中にある介護施設などで送迎をどうするかなど、ご指摘もいくつかいただいた。 また、会場が動植物園に近いので、動物への影響も心配されたが、動物が暴れるようなこともなく、花火の影響を受けなかったのも良かった点である。 いずれにせよ、皆様に安全に楽しんでいただけるイベントとして、これからも続けられるように頑張りたい。そのためには、市民の皆様のご協力が不可欠なので、ご理解いただければと思う。</p>	観光文化交流局	観光振興課 にぎわい推進室
	<p>(1) 江津湖の水藻などについて 江津湖は、面積が約50ha、周囲は約6kmだが、その水面にウォーターレタス等も含め外来の水草が非常に増えている。また、葦も全体の面積の1割ほどを占めている。この状況を改善し、元のきれいな水面に戻してほしい。 江津湖が熊本市のオアシスと言われるには、水草が繁殖し過ぎて汚くなってしまっている。</p>	<p>江津湖の水草については、外来種の中でも最近特に繁殖がひどいのはブラジルチドメグサなどである。私自身、8月に2時間くらい水の中に入って水草刈りをしたが、対策が中々追いつかない状況である。 今年度、熊本市では水草刈取船を購入し稼働させ、取り組んでいる。ブラックバスなどの外来魚も、人には安全な方法で電気ショックなどを使い、対処している。ただ、ブラジルチドメグサやウォーターレタスなどはすぐ増えてしまい、今のままでは追いつかず、いたちごっこになってしまうので、来年度からできるだけペースを上げて取り組みたい。 また、市の職員だけでは対応に限界があるので、市民参加型の清掃イベントなどができないかと考えている。その時は、ぜひご協力いただきたい。 今回水に入ってみると、水がどぶ臭かった。昔はもっときれいで、そんな臭いはしなかった。富栄養化が進んでいる証だと思う。そのようなことも含め、江津湖の環境を徹底して良くしていきたいと思っているので、市民の皆様のご協力をお願いしたい。</p>	都市建設局	公園課
2	<p>(2) 歩行者天国の撤廃について 健軍交番から南に行くと、水源町がある。ここの車道の幅が8m70cm、歩道の幅が2m40cmあり、車道と歩道の間にはガードレールがある。それにもかかわらず、この場所は、まだ自動車の少なかった時代に歩行者天国に指定され、そのままになっている。熊本市において、市道で歩行者天国なのは、ただ一つここだけである。その隣にはライトハウスという視覚障がい者の施設があったが、5年前に閉鎖された。 今、市道で車が通れないのは、水源町の約300mの区間だけである。ここはほとんど人は通らない。周囲には、公園が3箇所あり、地域の人は車椅子の人がいるからと言うが、そこはそのような方専用の県営住宅ではない。 このような状況であるから、歩行者天国を撤廃してもらいたい。</p>	<p>健軍交番から南にある水源の車道（県営泉ヶ丘団地の間の道路）については、もう少し地元の方々が通行しやすくしてほしいということが根底にあるのだと思うので、畦道（あぜみち）のことも含めて、持ち帰って確認をさせていただき検討したい。 （歩行者専用道路指定の経緯ははっきりしないが、駐車禁止の指定は昭和56年に行われており、平成15年以前に地元からの要望により歩行者専用道路になったものと推測される。 地元自治会より、歩行者専用道路の撤廃について、町内の総意を得た上で東警察署に要望書の提出が必要かと思われるが、現在、東警察署（交通第一課）で対応中と聞いている。【東部土木センター維持課】）</p>	都市建設局	東部土木センター 維持課 土木総務課
	<p>(3) 遊水地のような土地への課税について 農家には、昔は畑に畦道（あぜみち）があった。今では、東部はほとんどが住宅地となり、以前は畑の畦（あぜ）を通っても良かったが、もう入れなくなってしまった。 しかも、住宅に土盛がされたため、住宅の雨水は残された地域に流れ込み、そこが遊水地となっている。道も無く水はけも悪く、市のために遊水地となっているような状況の土地に対して、少し安くなっているというものの固定資産税が課せられているという矛盾がある。このような点につき、改善できないか。</p>	<p>（お問い合わせの状況では固定資産税の課税をなくすことはできないと考えられるが、評価については個別にご相談を受けている。所有者の方から東税務課へご連絡・ご相談いただければ、現地調査等を行い、状況にもよるが評価の見直しを行なう場合もあるので、まずは東税務課へご連絡をよろしく願います。【課税管理課】）</p>	財政局	課税管理課

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>市役所職員の地域活動参加について</p> <p>8月21日の熊日情報文化懇話会で、市長が『「ずっと住みたくなる街」誰もがあげられる上質な生活都市くまもと』と題されて講演された。その中で人口減少に向けて大事なのが地域の中での人と人とのつながりであり、若い世代でもできる範囲で地域活動に参加してほしいと呼びかけられ、また、市の課題として地域コミュニティ再生や、まちづくりの担い手不足などを挙げられていた。</p> <p>地域活動がなくなれば、地域は荒廃する。互いに支え合い、長く安心して暮らせるまちにしていけることが大切と語られていることが新聞で報道されていた。市長が言っていることは、私もそのその通りだと思う。</p> <p>地域コミュニティの再生やまちづくりの担い手不足については、私も感じている。例えば、私は自治会長を務めており、当初は2年間の約束だったが後継者が見つからず現在6年目には入っている。</p> <p>このような中、私が一番思うのは、市役所OBで自治会長になってもらえる方が少ないということである。お願いしても断られる。画図校区は14町内あるが、市役所OBで自治会長やってもらっているのは2名、全体の1.4%である。熊本市内で870余の自治会があると聞いているが、市役所OBで自治会長をしている人が何人いるか調べたことがあるのだろうか。また、現職の市役所職員も地域活動にどれだけ参加しているのか。</p> <p>自治会長の仕事は、市役所の仕事がほとんどである。先程、市長から、まちづくりセンターをつくって市役所職員が地域担当職員として配置されるという話があったが、市役所職員が仕事としてだけでなく、私人として地域活動に参加することで、市長が考えておられるように、地域担当職員が市民の声を聞き施策に活かせるようになるのではないかと思う。</p> <p>前市長は、退職者辞令交付式の際に地域活動への参加を呼び掛けられていたと聞いた。しかし、退職者辞令交付式の際には右から左に聞き流すだけで、ほとんどの人が自治会活動には参加していないのが実情である。現職のときから地域活動へ参加し、退職後は自治会長として活動するよう指導していくことが大事だと思う。</p> <p>そこで、地域活動への参加を人事考課の対象にして、職員の意識改革を図ることが担い手不足の解消につながるのではないかと思うので、提言として受け止めてもらいたい。</p>	<p>私も帯山西校区の体育協会会長をしている。市長をやりながら会長はなかなか難しい。仕事の関係で、なかなかできないこともある。帯山西校区には、県庁OBの方が結構いらっしやった。地域の自治会長も県庁OBの方で、自分達の後輩が全然地域活動に参加しないと怒っていらっしやったが、今では随分そのようなネットワークもできています。</p> <p>やはり、市の行政のことで知っていると、よりつながりが分かりやすいので、私もぜひ積極的に職員の地域活動参加を促していきたい。</p> <p>ただし、市のOBだけで何でもやってしまうのもどうかと思う。地域活動には行政以外の感覚も必要なので、地域の皆様との交流の中で、皆様が活動しやすい環境をつくる必要があると考えている。</p> <p>全町内自治会長の中で行政経験者や市のOBがどのくらいいるのかについては、確認したいと思う。</p> <p>また、例えば秘書課にも以前は消防団の団長をしていた職員もいるが、異動で秘書課に来て市長の随行担当となると消防団活動はできない。このように、やはり部署によっても職員が地域活動に参加できる状況かどうかは異なっている。</p> <p>私も、これから市の行政職員もできるだけ積極的に地域活動に参加し、それが人事で評価されるような仕組みを部署によっては作りたいと考えており、検討をしているところである。</p> <p>更に、他方では、民間企業にお勤めの方も、なかなか地域活動に参加しにくいという状況もある。これについては、経済界の皆様と意見交換をする中で、会社の社員の方で地域活動に参加する人をきちんと評価する仕組みづくりや、ボランティアで地域の活動に参加するために休むときは積極的に休暇を与えることなどを働きかけており、経済界の方々にも賛同していただいている。そのような仕組みができてくると、少しずつ前進していくものと思っている。</p> <p>また、地域の担い手は何も高齢の方ばかりではない。実は、もっと若い中学生や高校生などでも、地域活動に参加したいと思っている人達が潜在的に結構いる。ところが、彼らには地域との接点がなく、地域に昔のような顔見知りの方がいなくなっているのので、地域活動になかなか関わりにくくなっている。</p> <p>このような学生も含めた校区の若い人達に、地域に関心を持ってもらえるような取り組みも行っていきたい。時間はかかるかもしれないが、子ども達に地域への愛着を持ってもらえれば、進学や就職などで一旦地元を離れて帰ってきても、またその土地を良くしていこうという気持ちになるはずである。</p>	市民局 総務局	区政推進課 人事課
4	<p>首都機能の熊本への移転について</p> <p>これは、70年前から、熊本の生んだ大政治家で大臣も務めた大麻唯男先生が考えていたことである。その方は、最高裁と皇居は東京に置いて、立法と行政の中心を熊本に持って来たいと考えておられ、私もその通りだと思っている。</p> <p>私は東京に4年ほどいたが、電車は混み、特にラッシュ時の混雑はひどく、多いところでは地下鉄は5層にわたって敷かれている。また、地震も熊本に比べると頻繁に起こる。熊本の下には活断層は通っており、関東大震災以降、熊本では最高でも震度4程度の地震しか起きていないと思う。</p> <p>熊本に首都機能を持って来るとどうなるかという、今東京都に22万人の公務員がいるらしいが、熊本が首都になれば、2～3万人は辞めたしても約20万人の公務員が熊本に移ってくる。そうすれば、米や野菜など農水産物・畜産物が売れ、関連業者も潤う。更に、知的レベルも非常に高くなる。</p> <p>それと国会議事堂や行政府の本庁、公務員の住居なども建設しなければならない。そうすると、建設関係で需要が発生し、経済の活性化に役立つと思う。</p> <p>市長は県知事へ、市議は県議などに働きかけ、市民・県民一体となって署名活動をして、この運動を進めてほしい。</p>	<p>東京一極集を是正するための首都機能移転の話に関連しているものと思うが、熊本は比較的多くの国の出先機関がある。東区にもそのようなものがあるし、国家公務員住宅もたくさんある。</p> <p>今、通信環境も随分良くなってきているので、必ずしも東京に全ての機能が集中していなければならないということでもないのではないかと考えている。</p> <p>例えば、福岡には国土交通省の九州地方整備局という機関があるが、その拠点を熊本に置いてもらうという話であれば、そこで600人くらいの職員が働いているので、駅前の合同庁舎の近くにもう1棟合同庁舎を建てていただいて、そこに移っていただく、熊本駅から新幹線で行き来もできる。そういうことについては、私は県議会議員時代から言ってきた。</p> <p>しかし、これについては国の方もそう簡単に了承するものではない。熊本へ国の機関を移転する際の利点をきちんと示す必要があるが、県でも政府機関の地方移転について国に提案しているところであり、県市一体となって頑張っていきたい。</p>	市長政策総室	政策企画課

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>（1）職員の不祥事について 職員の不祥事問題や事務処理ミスの多発問題、今ここに全力を挙げられていると思う。前市長のときは、議会のたびに陳謝から始まるという流れがあり、当時から非常に大きな問題であったが、市長が替わってもなかなか直らない。「魚は頭から腐る」と言うが、頭が替わっても不祥事が変わらず起こるということは、組織の体質的な問題があるのだと思う。 市長の説明があったように、総合計画などにも取り組んでいくわけだが、やはり行政に対する信頼が大事だと思う。それが揺らぐと、どんなに立派な政策の方針を打ち出しても上手くいかないということがあると思うので、組織の体質的な問題があれば、しっかりと正していただきたい。</p>	<p>不祥事については、組織の体質を徹底して改善していかなければならないので、私が市長になり、いろいろなものをオープンにするよう指示している。 もしミスがあったら隠さずに早く報告し、そのミスをリカバーすることが大事である。市民の方にご迷惑をかけたなら素直に謝り、次から改善するようにミスを共有化する取り組みを行っている。 現在ミスを減らす取り組みを継続して行っており、市のホームページにその月のミスの件数や内容を公開しているので、ご覧いただき、お気づきの点などがあればお知らせいただきたい。</p>	総務局	人事課 コンプライアンス推進室
	<p>（2）特定市議の圧力について 最近新聞でも問題が報道されたとおり、特定の市議会議員の圧力で行政行為が歪められた。新聞報道によると、市の職員がまともに職務執行ができないという大変な問題であるが、どうもうやむやですっきりしない。これについても、職員のやる気などで行政行為がやりづらいつという問題なども背景にあるのではないか。 この問題についても、本気になってしっかり膿を出してほしい。</p>	<p>そもそも、議員の方が要望などをいろいろな活動の一環としてされるのは必要なことである。 しかし、一部の人のために捻じ曲げて何かをするということがあってはならない。これを私は「横槍行政」と言っており、止めさせなければならない。 ニュースでも報道されていたと思うが、一部の議員の不当要求行為が認められたので、どのように対処するか検討している。厳しく、徹底的に対処していく。 そして、行政と議会との良好な関係を結んでいくために、しっかり取り組んでいきたい。</p>	総務局	総務厚生課
5	<p>（3）熊本市の子育て環境について 熊本市は、子育ての環境が悪く、遅れている。 高校生までの医療費無料化も結構たくさん出ているし、中学生まで無料というのも周辺市町村では当たり前である。 うちの娘もそうだが、熊本市は遅れているから隣がいいと益城町へ転出してしまいう人もいる。熊本市と近接した益城町では、子育ての環境が随分良い。熊本市では待機しなければいけない保育園にもきちんと入れる。 子育ての環境について、しっかりと対策を講じていただきたい。よその自治体では給食費も全面無料にするとところも出てきている。</p>	<p>子育てで支援も含めた子育ての環境の問題、とりわけ子どもの医療費無料化については、財政の問題もあり、なかなか一気に実現というわけにはいかないが、段階的にでも少しずつ取り組んでいきたい。 今、来年度どこまでできるか検討しているところなので、12月議会、2月議会でも議論したいと考えている。</p>	健康福祉子ども局	子ども支援課
	<p>（4）零細企業の保護等について 零細事業者を手厚く保護することは、住みよいまちづくりには大事だと考える。 例えば、天草市では住宅リフォーム助成制度で1億円の予算をつけており、地域の中小企業者も増え、大変喜ばれている。 プレミアム付商品券が販売されており、一時的には効果があると思われるが、やはり継続して地域で経済が循環していく仕組みが望ましい。先に挙げた住宅リフォーム事業や、最近では店舗リフォーム事業が流行している。不況でシャッターが下りた商店街の店舗につき、改装費や設備費を店舗リフォームとして助成するものである。あさぎり町では100万円の助成金を出し、地域の経済を活性化させ支えるシステムを作っている。 このように、本気になって地域経済のために市がいろいろな施策を実施していくことが、今こそ求められているのではないか。 消費税も10%に上がり、また今後経済的に大変になるので、その影響等に対する手当てをしっかりと実施してもらいたい。 特に、中心街のMICE施設には約400億円かかると言われているが、予算の使い方については、そのような大型投資ではなく、地域の人達の子育てや高齢の方への対策に重点的に使ってもらいたい。今、介護事業所がどんどん潰れているという話もあり、介護が大変になっている。これからのサポート計画をしっかりと立てないと、住みよい熊本市にはなっていないと思われる。</p>	<p>大型投資も、中心部の再整備をしながら、街の魅力を高めていくということもあるので、必ずしも悪いというわけではないが、中小企業への政策については、大型投資だけでなく、地域のためになる投資と両面から取り組んでいくということで、ご理解いただきたいと考えている。 （平成26年6月に「小規模企業振興基本法」が施行され、地方自治体の責務として区域内の諸条件に応じた施策を策定・展開することが明記されており、本市でも見本市出展助成や新製品・新技術研究開発助成において小規模事業者枠を設け、地域経済の発展を促している。【商工振興課】）</p>	都市建設局 観光文化交流局 農水商工局 健康福祉子ども局	都心活性化推進課 MICE推進課 産業政策課 商工振興課 高齢介護福祉課

No.	ご意見	回答	局	担当課
6	<p>ブックスタート事業について</p> <p>本日は、ブックスタート事業の設立準備委員会立ち上げに熊本市として取組んでほしいと提案するために参加した。私は、校区では子育てネットワークのメンバーをしており、東区では赤ちゃんの子育て支援でママパパ教室に取り組んでいる。</p> <p>ブックスタートは、生まれてきた赤ちゃんが生後3ヶ月から1歳の間、乳幼児健診や歯科検診の際に1～2冊の赤ちゃん絵本をプレゼントし、その時にわらべ歌を歌ったり、絵本を読んでみせたりして、赤ちゃんがどんなに喜ぶか母親に伝えるものである。これは赤ちゃんを育てる上で一番大切な親子のふれあいの契機にもなっている。</p> <p>市町村自治体、図書館、保健センター、子育て支援部署、教育委員会、それから私のような読書ボランティアが横に連携し、自治体の財源で実施している。</p> <p>今、機械化・デジタル化が進み、親が子どもの目を見て話しかけるということがやりにくい時代になってきている。虐待を防止する要素もあるということなので、生まれたときから愛情のある家庭教育を始め、子どもの幸せのためにも、まるごと1冊の絵本を渡すという取り組みをぜひ行っていただきたい。</p> <p>私がしている子育てサークルやお話会に来られる方は良いが、来られないの方が問題をたくさん抱えている。以前、「いないいないばあ」の絵本をある所で読んだときに、それで自殺を思い止まったと言ってくれたお母さんがいたが、本を読むことでそのようなことができるということに感動し、熊本市としてもぜひ取り組んでもらいたいと思った。</p> <p>熊本市では、たしかに、図書館が絵本のリストを配っているし、こんにちば赤ちゃん事業も始まり、民生委員が一軒一軒回ってお母さんの様子を見たり、話を聞いたりはしている。しかし、赤ちゃんの絵本を一冊で良いので渡して、このように読めば良いですよやり方を教えることにも取り組まないと行き届かないという不満を感じている。</p> <p>私は、2003年からボランティアをしながらブックスタートが始まるのを願ってきた。政令指定都市になったら実現すると思っていたが、逆に、今までブックスタートを行っていた植木町と富合町では合併してなくなってしまった。一方で、近隣の益城町、大津町、合志市ではブックスタートが始まっている。貰い始めたころの子ども達はもう12歳になっている。</p> <p>横につながることは、なかなか難しいことだとは思いますが、北九州市や福岡市など他の人口の多い政令指定都市でも実施しているので、市長がやろうと決めれば設立準備委員会を立ち上げて、ぜひ熊本市でもブックスタートを始めてほしい。東区からでも始めてはどうだろうか。</p>	<p>ブックスタートについては私も知っており、イギリスのパーミンガムで始まった取り組みである。私も県議時代、読書の推進ということで、この法律ができたときにもしっかり取り組むように県議会でも言っていた。</p> <p>私自身、読書が好きで、子どもへの読み聞かせもずっと行ってきたが、ただ単にパッケージとしてブックスタートを実施し本を与えれば良いということではない。以前、北海道恵庭市の市長から聞いたことだが、本を配ることでネットワークができること、孤立化を進めないことが重要である。</p> <p>先程も、育児は大変だというお話があった。私も、自分の娘が生まれたころ、やっと授かった子どもでかわいくて仕方がなかったが、妻から、娘はかわいくて仕方がないが、それでも憎らしいという瞬間もあると聞いたことがある。虐待などは、母親が割割的に一番多いと聞く。そのようなことも含め、ちょっと相談する相手、子どもを預ける場所、また、ブックスタートも含めて何かのきっかけがあると、親も孤立化せずつながりができてくる。</p> <p>子育てしやすい環境、サポートをする環境を整備していくことは非常に重要だと思うので、いただいたご提案も含めて、財政的な問題も考慮しつつ、他の自治体も参考にしながら、考えさせていきたい。</p>	健康福祉子ども局 東区役所	子ども支援課 保健子ども課
7	<p>育休退園制度について</p> <p>今回の参加者の皆さんが子育て世代のことを考えてくださっているのだと感謝している。特に、ブックスタートについては、5年前久留米に住んでいるときに、子ども1人2冊ずつ貰った記憶があり、熊本市では実施していないのだと思ったところだった。</p> <p>私は0、3、5歳と3人の子どもを育てている。先日新聞にも載っていたが、子育てには体力やお金がかかると日々感じている。市長の公約にもある中学生以下の医療費無料化の早期実現を期待しているところである。</p> <p>そのような中で、至急改善してほしいことがある。育休退園児の問題である。</p> <p>私は今年3月に3人目を出産し育休に入った。その際、2番目は未満児ということで退園、一番上は年中だったが継続可能ということで、今も一番上の子どもだけ保育園に登園している状況である。</p> <p>来年4月には、2番目は年少になる。姉と同じく通わせたいが、育休中で就労していないということで、入園の申し込みができなかった。しかし、上の子は継続なので登園できるということだった。このことで区役所にも尋ねたが、納得できるような回答は得られなかった。</p> <p>先般、都市部では母親達が声を上げ育休でも保育園で子ども達を受け入れるようになったところもある。しかし、まだ改善されていない都市が3つほどあり、残念ながらその1つが熊本市だと聞いた。</p> <p>子どもは熊本市の宝だと思っている。わが子が友達と一緒に活動できるように、集団生活を送らせてやってほしい。</p> <p>今では核家族がほとんどだが、子どもと1対1でいると、イライラしたり、つらいときもある。そのような中でもサポートなしで子どもを育てている家族がほとんどではないだろうか。子どもを育てにくい環境では、子どもはなかなか産めないと思う。</p> <p>これから子どもがどんどん増えていくためにも、育休中でも年中以上児なら退園せず通えるように、熊本市でも改善をお願いしたい。</p>	<p>育休時の退園の問題については、あと3つか4つの自治体が残っているようだが、私自身も何とかしなければならぬとずっと思っている。</p> <p>ただ、これだけが理由にはならないが、熊本市は待機児童がとにかく多い。私が就任した後、4月1日時点で397人の待機児童がいた。前市長のときから、せっかく受け皿をつくってきたのに、待機児童が減っていないということが分かったので、緊急事態を宣言して対策を指示し、47人まで減った。それでも、まだ待機児童は増えている。</p> <p>そこで、まずは入園希望の待機児童の解消を一番優先にしようということで、育休退園の方にはご理解を求め、お願いをしている状況である。</p> <p>ただし、今の状態で良いとは全く思っていない。市長選の際にご要望をたくさんいただいたことでもあるので、今後、議会や財政当局とも相談しながら、制度設計を考えていきたい。できるだけ早く対応できるよう頑張っていきたい。</p>	健康福祉子ども局	保育幼稚園課

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p>地域活動の担い手不足について 子どもが2人おり、長男が4年生、下の子が2年生のときに、私もそろそろ地域貢献しようとしてPTA活動を始め、地域活動に参加するようになった。 ところが、皆さんもおっしゃる通り、次の世代の若い担い手がない。私も一応若い世代に入るが、いろいろな行事で中心となって活動している地域の方々は高齢化しているという声をよく聞く。昨年度の農業体験のときには、地域の方々が熱中症で数名気分を悪くしたと聞いて、やはり若い世代が必要だと痛感している。 そのような中、大西市長に私の背中を押してほしいと思っていることがある。若手に地域活動は楽しいと言っても、忙しいから、子育てで大変だからとなかなか通じない。 桜木校区は新興住宅地で、入れ替わりがとてもしんどいところでもあるが、私のようにPTAの横のつながりでいろいろな方に話しを聞けば、できないことはない。 そこで、大西市長から「若い担い手にぜひ地域活動に参加してほしい。」という一言を私にいただけたら、私はそれをそのまま持ち帰って若手を説得してみようかと思っている。</p>	<p>地域活動をされているということで、非常にご苦労が多いことと思うが、後押しをしてほしいということだったので、ぜひ頑張ってください、地域の仲間づくりに積極的に取り組んでいただきたいと思う。 何か手助けしてほしいとき、再来年度以降、まちづくりセンターのような形で地域に職員が入っていけるようになれば、区役所やまちづくり推進の担当と一緒に地域の皆様のネットワークづくりをお手伝いできるようにしたいと考えているので、同世代あるいは下の世代の方々にも、ぜひ呼び掛けていただきたい。 ただし、地域活動を何でも全部やらせると嫌になってしまうので、無理のない形で諦めずに、いろいろな方と一緒に頑張っていただきたい。 今から新しい方が参加できるような素地をつくりたいと考えているが、その前に、まずは地域で顔見知りになったり、ちょっとした挨拶ができるようになったりするだけで、実は全然違う。地域で暖かいつながりを作っていく、無理のない範囲で地域活動をするを、「地域主義」ということで皆様に呼び掛けていきたい。</p>	市民局	区政推進課
9	<p>シルバーシェアハウスの設立について 私は、シルバーシェアハウスの設立を提案したいと思う。 日本経済の低迷が続く中、団塊の世代も年金暮らしに入って、今からが大変である。熊本の独身の女性で厚生年金の受給額が10万円以上は高いほうにあたると思う。その一方で、生活保護は10万3000円にいろいろな扶助が付くので、最低限の人でも住民税、介護保険、国民年金は負担することを考えると、実質的には13万円以上になるのではないかと。 そうだとすれば、団塊の世代の私達は、生活保護以下の収入で生活保護にはならないようにするにはどうすれば良いかを考えなければならない。 以上を踏まえ、やはりシルバーシェアハウスの設立が必要ではないかと思う。今のところ、全国でそういうことを言っている政治家は1人もいない。熊本市でそれが実現したら、まず独居老人がいなくなる。私の周囲の独居老人でも、自分の個室でプライベートが保たれる空間があれば、皆と協同で生活するというライフスタイルが良いという人は、実は何人もいる。 シルバーシェアハウスが実現した際には、介護保険の一部を使って公的な部分を見てもらえれば入居者は自立できると思う。食費や光熱費などを単身世帯では負担できなくても、人数が集まれば、最低限のものは払っても安くまかなうことができる。そうすれば、小遣い銭もできるくらいの最低限の生活が、国のお世話にならずにできると考える。 熊本市で一番シルバーシェアハウスの設立を考えていただいたら、皆が助かると思う。特に、独身の女性は今後年収がどんどん減っていくと思われるので、なおさらである。また、現在、非正規雇用者が1900万人で全雇用者の37%にあたるが、この方達に聞くと、派遣会社の方で厚生年金などを天引してくれないところもあるようだ。それでは国民年金も払えないだろうし、本人が貰える年金額も減っていくだろう。それだけでなく、国民年金の受給額自体が毎年減らされている。このままでは、将来、皆がいくばくかの生活保護を受けなければならないようになってしまう。そうならないためにも、熊本市にシルバーシェアハウスを一番最初に設立することを考えてもらいたい。 施設については、私は廃校を利用したら良いのではないかと考えている。 今、介護施設などに行くと、トイレにも人がついて行くし、日常生活で動かないために健康な人が歩けなくなってしまうという現状がある。高齢者は、きちんと動いて、自らに加重をかけなければいけない。そこで、きちんとスケジュールを作り、それに沿って動くようにする。男性であれば、可能ならば畑仕事をやる。コミュニケーションができていっているうちに畑に出たりすれば、認知症も防げる。 介護保険の一部を使い、このような総合的な取り組みができるようにすれば良いと考えている。廃校であれば、建物の修理の関係を行政で負担してもらい、あとは自助が良い。ケアマネージャーも、1人で何施設かを受け持つてもらえば、介護保険の負担も少なくて済むものと考えている。 以上のような方法で取り組んでいただきたい。</p>	<p>シルバーシェアハウスは、非常に画期的なご提案だったと思う。 今、年金や生活保護の問題、受給の問題も含めて、全体的に不公平感がとても強い。この問題は、熊本市だけで解決できる問題ではなく、社会保障の問題も含めて国全体でどのようにしていくのか議論が必要である。 今ご提案があったシルバーシェアハウスも、例えば、空き家対策というようなことでも何かつながりができるのではないかと。 ご提案にあったような高齢者の方が自立し安心して生活できるようにするシステムについては、さまざまな工夫を研究させていただきたい。もし、またご提案があるということでお伝えいただければ、我々も勉強させていただきたい。</p>	健康福祉子ども局 都市建設局	建築計画課 高齢介護福祉課

No.	ご意見	回答	局	担当課
10	<p>(1) 町内会への助成金の格差について まちづくりは、地域、まずは各町内からつくられるものと思っている。町内の「和」を一番大事にしたいと考え、町内会長などいろいろな取り組みをしている。しかし、人に集まってもらえないと何もできない。また、人を集めるためにも、ある程度予算が必要となる。 うちの町内は小さい町内であり、町費を集めているが限られた額にしかならない。市からも助成金を貰っているが、助成金の額は町内の大きさに比例しており、ここに町内間の格差が生じている。 例えば、うちの町内が50世帯、隣の町内が100世帯で、年間の町費収入がそれぞれ50万円と100万円だったとすると、市の助成金も世帯数に応じて決まるので格差がどんどん開いてしまう。 うちの町内は、限られた予算でやっていかなければならないので、常にお金の心配をしなければならない。公民館のエアコンなども古くなっているのでも壊れたらどうしようかなどと、いつも頭から離れない。市の方から費用を出してもらえないかなども考えてしまうが、そういうわけにもいかないので、この格差問題をどうにかできないのだろうか。</p>	<p>予算のことも含め、自治会活動やまちづくりの難しさについてのご意見をいただいた。 補助金は世帯数に比例するだけでいいのかということも含めて、地域の実情に合った行政からの支援のあり方や、自分達でネットワークを作ることへの支援についても、一朝一夕にできる話ではないが、私の掲げる「地域主義」の中で1つずつ丁寧に取り組んでいきたい。 お気づきの点があれば、遠慮なく言っていただきたい。普段から地域の自治会の活動にご協力いただいている皆様に対しては、感謝を申し上げたい。</p>	市民局	区政推進課
	<p>(2) 公園の新設について うちの町内は電車通りを挟んで南北に分かれている。おまけに公園もなく、イベントをするにも、公民館の狭い敷地内でするしかない。今のところ、どうにかそれでいいでいるが、公園がほしい。</p>	<p>(公園の新設については、平成20年度に策定した「熊本市公園施策の基本方針」に基づき、2年間に1箇所のペースで小学校区で一人当たりの公園面積が少ない校区を重点校区と定め公園整備を行っている。 今後この基本方針の見直しを行う予定であり、その中で少子高齢化に伴う人口減少社会に対応した公園の施策を検討していく。【公園課】)</p>	都市建設局	公園課
	<p>(3) まちづくりの後継者問題について 町内の人数が少ないので、人材も少なく、次期会長もなかなか決まらない。 先程意見が出ていたが、市役所OBのような方に町内会長になってもらえないかと考えたりもする。協力をよろしく願いたい。</p>	<p>(自治会役員など、地域でのまちづくりの担い手不足の問題は、本市における大きな課題と認識している。 そのため、現在、本市においては、「まちづくり支援機能強化と出張所等の再編」に関する基本的な考え方をまとめ、その中で、(仮称)まちづくりセンターの設置、地域に積極的に出向き、地域情報の収集や地域コミュニティ活動支援を行う地域担当職員の配置、まちづくりを担う人材の育成など、まちづくり支援機能の強化に向けた具体的な検討を進めることとしている。 この中で地域のリーダーとなる人材の確保等についても地元と一緒に検討していきたいと考えており、市役所職員OBなどの活動についても、まずは地域活動や町内自治会等、地元に関わる人を増やしていくなど、長期的な視野で対応したい。【区政推進課】)</p>	市民局	区政推進課
11	<p>(1) 資産税について 固定資産税が高額なので、5ha(15,000坪)の商業施設をつくらうと若い頃から考えてきたが、都市計画法が自民党によって変更され、それができないようになってしまった。 このように所有者の意思が反映されない、意思を反映させたくないのであれば日本国内のすべての所有権を否定することだ。国家賠償法によって損害賠償してもらいたい。</p>	<p>前回の「ドンドン語ろう！ in東区」でもいろいろご意見をいただいた。 食品の異物混入の話も、前回、別の方からのご意見であったが、我々行政も、ご負担をおかけするだけではなく、きちんと皆様の声をお聞きしながら、さまざまな施策を進めていくことが大変重要であると十分承知している。 今後また、ご意見をいただければと思う。</p>	財政局	課税管理課
	<p>(2) 食品異物混入への市の回答について 前回の「ドンドン語ろう！ in東区」の中で、弁当に菌のようなものが混入していたとの発言があった。保健所で分析したら軟骨であったとの結論に達したということであったが、そもそも菌は勿論のこと、軟骨等も混入しないように調理しお客様に提供するのが外食産業であって、これらを衛生面から監督するのが熊本市の保健所である。 まな板、包丁、着衣、帽子、手袋など、事細かな注意を要求しているにもかかわらず、飲食業に対し食中毒を起こさなければならぬ問題はございませんとの回答としか受け取れなかった。食中毒を起こさなければ、賞味期限・その他も食品衛生法に触れなければ市は関係ないとか取れなかった。</p>	<p>(2) 食品への異物等の混入防止については、「安全安心な食」の確保のために不可欠な問題として、保健所による食品等関係事業者等への監視・指導を実施している。 今回、提起していただいた案件に関しても、弁当製造施設に対して本市食品衛生監視員による立入調査を実施し、衛生確保及び異物混入防除の観点から改善が必要な事項に対して指導を実施した。【食品保健課】)</p>	健康福祉子ども局	食品保健課
	<p>(3) 隣接する公園について 公園でソフトボールやサッカーをさせ、隣地の民家のガラスを割る悪意の行為を熊本市は助長している。そのうえ、割った本人を自分で捕らえ本人から賠償してもらいなさいと看板を立て、瑕疵はないと主張する身勝手な熊本市である。 公園という無責任空間をつくりだし、隣地の被害は無視し、税金は取り立て、賠償しようとはしないと、ヤクザに他ならない。</p>	<p>(3) 公園とは、「人々のレクリエーションの空間」、「都市の防災性の向上に資する空間」及び「豊かな地域づくりに資する交流の空間」など多様な機能を有する都市の根幹的な施設である。そのような目的で整備された公園をさまざまな人々に快く利用していただくために公園利用者各人のマナーが不可欠と考えている。 その公園利用のための注意事項として、その利用者が他の公園利用者や隣接地に迷惑を与えるような行為は一般常識上行うべきではないこと、直接損害を与えた利用者が損害を受けたものに対し弁償することなどを記入した看板を設置しマナー啓発を行っていると共に、地元自治会、公園愛護会、公園付近の小学校や中学校にも迷惑がかかるような行為はしないよう呼びかけている。 特に小さな街区公園などにおいては、条例上のルールだけでなく、地元が主体的にその地域に合った公園利用のルール作りに取り組むことが大切と考えている。 今後、本市としても地元の方々とは話し合いを行いながらその地域にあった公園利用ができるよう取り組んでいきたい。【公園課】)</p>	都市建設局	公園課 東部土木センター 河川公園整備課

No.	ご意見	回答	局	担当課
11	<p>（４）過度の社会保障の弊害について マルクスは資本論のなかで、社会保障の充実を述べ、現日本国では手厚い社会保障が実現されている。その原資について、以前は雇用者である大企業が負担していたが、赤字を出している企業は原資を1円も負担しない。その代わりに資産を持つ者から取り上げるように、平成6年から制度が変更された。 充実した社会保障により、無産階級は日々生き延びれば良いと考えており、余剰金は宗教団体に寄付し、賭博であるパチンコ、競馬、競輪に夢中である。 過度の社会保障は悪を産む。民主主義では、過半数を超えた方の意見が通り、過半数以下は無視され、不満分子は多数存在する。</p>		健康福祉子ども局	
12	<p>（１）公園の利用について 前回、8月の託麻公民館で開催された「ドンドン語ろう！ in東区」でも質問したこと続きで、公園の利用について質問したい。 私達は地域で四ツ角マーケットを6年間、31回にわたり実施している。途中から現金の授受が禁止されたため、ワークショップとステージだけが公園内に残って、現金の授受を伴う出店については公園の外に出て実施している。そのような形式で実施するようになったため、子ども達がこの道路を頻りに横断し、交通整理に苦労している。 前回質問をした際に、市長から「パークマネジメント」という考え方が出てきていると聞いた。早速それに関する本を読んでもみると、「パークマネジメント」とは、今までは行政は公園を造り、管理するのが主な仕事だったが、これからは行政が公園を地域やまちづくり活動に積極的に利用し経営するようになっていくという考え方だった。 正式にはではないが、来年度あたりから公園の使用について基準が緩和されるという話を伝え聞いている。これについて、前向きに考え始めているのかどうかを聞きたい。</p>	<p>四ツ角マーケットについては、前回もご意見をいただいている。 公園の今後の条例、公園の利用のあり方、公園使用料の徴収を含め、どういう形にするのか検討に入っている。新年度に向けて整理し、要綱などができればそれに沿った形で取り組んでいきたいと考えているので、また、それについてもご意見をお聞かせいただきたい。 （公園の利用について「パークマネジメント」の考え方も取り入れ、いかに公園が市民の皆様にも平等に親しまれながら利用してもらえるか、その形態、条件等について整理し検討していく予定である。【公園課】）</p>	都市建設局	公園課
	<p>（２）錦ヶ丘テラスについて 前回、8月の「ドンドン語ろう！ in東区」の際に、錦ヶ丘のまちづくり構想、「錦ヶ丘テラス」の資料を読んでほしいということで渡したが、今日はその関係の仲間と5人で来た。 その組織が具体化したときに、市長にも実行委員会に来てもらって、まちづくりは大変な負担になるので、元気ついて続けていけるよう地域と意見交換してほしい。</p>	<p>錦ヶ丘テラスが具体化したら来てほしいということだが、私の日程もかなりハードで、正月までスケジュールの空きがない。 なかなか厳しいところではあるが、もし日程的に可能であれば、ぜひ出向いていろいろとお聞かせいただければと思っている。</p>	市長政策総室	政策企画課
13	<p>来訪者への「おもてなし」について 自分も高齢者になり、時間に余裕がある。朝起きて、新聞も2時間くらいかけて政治・経済・文化などじっくり読んでいる。地域活動では、交通安全協会などに入り、学ぶことも多い。 先ほど、先日、市長がイギリスに行かれた話があったが、どの地域にも「おもてなし」があると思う。私の中では、以前、福岡に行った際に受けた「おもてなし」が強く印象に残っている。福岡で地下鉄に乗ったとき、隣の見知らぬ人から話し掛けられ、私の携帯のバンドが曲がっているからと、自分のバンドをくれたのである。これは小さなプレゼントだが、今でも頭に残っている。他のことはことはすっかり忘れてしまったが、10年ほど前にもらったバンドのことは忘れていないのだ。 この「おもてなし」は、例えば熊本城マラソンでも沿道の大勢の観客の応援が大変喜ばれているように、何億もの経済効果にもつながっている。このような「おもてなし」で熊本が好きになれば、外国人も含めて、たくさんのお客にまた訪れてもらえるはずである。 私達、市民の1人としては、小さな親切、プレゼント、何でも良いので、外から熊本を訪れた人が家に帰ってからも忘れないような「おもてなし」をしてあげることが大切だと思う。</p>	<p>来訪者への「おもてなし」や、いろいろな小さな親切に関するご意見をいただいた。 たしかに、ラグビーワールドカップなどの大きなイベントを呼んでくるときに、ただ単に経済効果で熊本が潤えば良いということではない。そのようなイベントを呼び込んで、いかに地域の皆さんと外から来たお客さんとの交流が深まるか、そして地域の皆さんがお客さんを迎えるためには、例えば外国の方にはどのように接すればいいのかが、今回イギリスに行って、私自身も本当に考えさせられた。 イギリスでは、若い人からお年寄りまで大変親切に接してくれ、ラグビーのファンゾーン（日本で言うところの「パブリック・ビューイング」）というのがあるって、そこでもいろいろ取り組みをされていたりして、英語が喋れず言葉が通じなくても心地よいという「おもてなし」があった。 そのようなことにも、ぜひ取り組みたいと思う。</p>	観光文化交流局	スポーツ振興課 観光振興課

No.	ご意見	回答	局	担当課
14	<p>(1) 公民館のトイレについて 私は、公民館の自主講座自治会連合会の会長をしている。先日、秘書課に市長宛の要望書も出したので、忙しい中とは思いますが目を通して検討していただきたい。 新総計計画等の話があったが、将来へのビジョンを市と我々市民とが共有することは非常に重要であり、期待している。そのように将来のことを考えると同時に、今、その裏に取り残されていることも多くあるのではないかと思う。しかも、それは実際に現場に行ってみないと、よく分からないのである。 例えば、この東部公民館では、自主講座の講座生が1, 500人、月2回だと3, 000人が活動している。公民館に来られるほとんどが高齢者である。若い人も必要だが、この今の元気な高齢者をどうするのかという問題もある。 今、この公民館、ホールはきれいになり、将来は東区のコミュニティづくりの中心となって取り組むのだらうと期待している。しかし、現在、この公民館のトイレは全部和式である。高齢者の特に女性が困っている。あるいは、そもそも子どもは洋式しか使ったことがなく、なかなか使用しない。 予算のこともあると思うが、将来ここを地域拠点に利用するというのであれば、よく現場を見て速く対応するような眼を持ってほしい。</p>	<p>個人的には、公共施設のトイレについては、全市的に今後洋式へ変えていった方が良く考えている。 当然、予算のこともあるが、外国からの観光客も訪れる観光施設であったり、高齢の方、子どもにも洋式のトイレを整備することが重要だと思っているので、実は既に調査を指示しており、今後どこから手をつけるかも含めて検討している。</p>	<p>局 財政局 東区役所</p>	<p>担当課 資産マネジメント推進室 東部出張所</p>
	<p>(2) 市職員の意識について 将来のことを言えば、道路、施設などハード面の課題が多いが、これを解決していけるかどうかは、ソフト面、特に市職員の意識にかかっていると思う。自分達の仕事がどこに向いているのか、私は「市民のために」ということであるべきだと考える。 先ほども出た不祥事の話にしても、その不祥事のつけが市民に回って非常に不便をしていることは先の要望書にも書いたが、そういうことが是正されない。問題の根本をよく見てほしい。</p>	<p>(職員には、信頼される市政の実現に向けて、一人ひとりが公務員としての自覚を持ち、市民の皆様視点に立って仕事に取り組むよう指導を行っていく。【人事課】)</p>	<p>総務局</p>	<p>人事課</p>
	<p>(3) お城まつりについて 先月お城まつりがあり、自分達も参加して楽しく盛りあげ、充実感をもってやらせていただいた。 しかし、二の丸広場にあった飲食コーナーを、ほとんどの人が利用しない。理由は小さなビール1本が500円するくらい価格が高く、その場所のものは、皆横並びに価格が高いため、誰も買わないのである。誰がその店をやっているのか、市のどこの担当がやっているのか、誰も分からなかった。我々も知らない人達がやって来て出店している状況だった。 これも、本来、地域の人が賛同して一緒になって行うことも必要なのではない。市民の方向を向いてもらいたい。</p>	<p>(秋のくまもとお城まつりの「食のイベント」運営については、お城まつり運営委員会事務局が入札により決定した業者に業務委託し、10/9(金)～10/16(金)の期間で開催した。ペットボトル等については定価販売とし、ビールについては、350mlカップを500円で提供した。食物についても同種同規模催事と同程度の価格帯で提供した。 ご意見の内容から、13日(火)～16(金)に生涯学習推進課が開催した市民学習活動発表会「熊本城ふれあいフェスティバル」時のご意見と見られるが、平日の開催であり来場者数が少ないため、食のイベントブースの利用者が少ない状況。 お城まつりの野外メインイベントとしては、10/9(金)～10/12(祝)にかけて開催し、延べ4日間で31, 286人の来場者があり、食のイベントブースの繁忙時には行列が発生する状況であった。 観光地での大規模イベントであり、来場者数も数万人規模となることから、市と地域住民が主体となって運営を行うことは難しい面があり、専門の設備と知識、経験を持った業者に委託している状況である。 食のブースについては関係団体等への周知を徹底するとともに、広くご意見をいただきながら来場者にとって利用しやすいイベントを開催していく。【熊本城総合事務所】)</p>	<p>観光文化交流局 市民局</p>	<p>熊本城総合事務所 生涯学習推進課</p>
	<p>(4) 公民館のホームページについて 今からは情報社会であり、先日、市長がSNSを利用して情報発信されていることをテレビで見たが、それは非常に大事なことである。 市の情報政策課から、数年前に自治会のホームページを開こうという呼び掛けがあり、当自治会も講習を受けホームページを開設した。それが非常に役に立っており、今、たくさんの人に見られている。 そのような中、今年になって、そのホームページを止めると市の方から言ってきた。そのときには理由は聞けなかったが、結局は、自分達が見込んでいたより利用者が少なく、予算に合わないため止めるということを伝え聞いた。 しかし、我々が開設しているのは、市のため、市民のためにというホームページである。それにもかかわらず、自分達で有料でサーバーを探してやれというのはどういうことか。一体どちらをむいて仕事をしているのか、甚だ疑問な一例である。</p>	<p>(本市では、インターネットを利用することにより、地域コミュニティの活性化や地域の自主的な課題解決を図ることを目的に「くまもとわくわくWebタウン」を整備し、平成22年4月より運用してきた。 しかし、整備から5年以上が経過し、機器の老朽化に伴う故障が頻発している。機器更新等も検討してきたが、多額の費用が必要になることや、最近ではブログやFacebookなど無料で利用できる民間サービスの提供などもあり、平成28年3月末をもって終了させていただくこととなったものである。 昨年度末から各登録団体様には連絡しているところだが、改めて「くまもとわくわくWebタウン」の終了についてH27.12.21付けで文書を出しており、その中で無料で立ち上げることができるサイト等についてもご紹介し、ご相談にも応じるようにしているところである。 これまでご利用いただいた皆様には大変ご迷惑をおかけするが、ご理解のほどよろしくお願いする。【情報政策課】)</p>	<p>市民局</p>	<p>情報政策課</p>
	<p>(5) 公民館の自主講座について 我々は自主講座と言っているが、先ほどの市長の説明で、市は主催講座を中心に地域の人づくりをやっていくと聞いた。主催講座は市、公民館がやっていて、自主講座は我々が勝手にやっているのかというと、決してそうではない。 そもそも、40年前は全てが市の主催講座だった。しかし、それでは大変だからということで、我々が手伝いながら自主講座を作ろうと、市と共に、公民館と共に、提携しながら取り組んできたのである。 この関係について、もう一度よく見直してほしい。</p>	<p>たしかに要望書をいただいております、ご提案の一部は読ませていただいた。 公民館のあり方は、非常に重要であり、公民館の位置づけを含めて、しっかり行政が市民の皆様と向き合いながら、新しい次の世代の公民館活動のあり方に向けて取り組んでいきたいと考えている。 (要望書については検討させていただく。【生涯学習推進課】)</p>	<p>市民局</p>	<p>生涯学習推進課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
15	<p>教育効果の高い政策について 私は、0歳、3歳の子どもを持つ子育て世代である。 これから、小・中学校と子どもを育てていく中で、1つ要望がある。教育効果の高い政策を実施してほしいということだ。 これからは高齢化で歳入が減っていくので財源の問題もあると思うが、それならばなおさら、効果的な政策が必要ではないか。 先般、巷でも話題になっている『学力の経済学』という本を読んでみて、その中にエビデンス・ベースト（科学的な根拠に基づいた）の政策評価ということがあった。これは、政策の費用対効果を統計的に分析評価するということらしい。 ぜひ、熊本市においても、アドバイザーの方を登用し、専門的なスタッフを揃え、そのような政策評価を行うとか、教育経済学の研究者からデータなどを積極的に提供してもらおうとか、どのような政策の教育効果が高いのか、きちんとしたエビデンスに基づいて、科学的な政策評価を行うようなアプローチを取ってほしい。 我々にも見えるような仕組みを作ってもらえると、市民の信頼感も増すと思う。</p>	<p>子育ても含めて、将来の教育効果の高い政策をきちんと実施してほしいというご意見をいただいた。エビデンス・ベースト、すなわち科学的な政策評価をしていくのは、非常に重要なことだと考えている。 実は今、熊本市でも教育大綱を作るよう検討しているところで、専門家からいろいろなご意見を聞きながら取り組んでいる。 学校については、もちろん、学力の他にも道德教育やしつけなどの家庭教育に関わる部分も担わなければならないのかもしれない。しかし、やはり一義的には、公教育の中できちんとした基礎学力をしっかりと身に付けさせるということが重要だと考えている。そのようなことについても、教育大綱を検討する中で、より具体的なものにしていきたい。 また、先生達が子ども達と向き合うためには、時間を掛けていろいろな準備をしなければいけない。先生達が子ども達と向き合う時間を作るためにも、それ以外のことについて教育コンシェルジュのバックアップであったり、困難な事例を抱える人達に対するスクールソーシャルワーカーのサポートなどについても、これからしっかり考えていきたい。 これらについても、きちんとデータも含めて調査しながら、検討していきたい。</p>	市長政策総室 教育委員会	政策企画課 教育政策課